

第12回 看護実践連携研究会 研修会 & 発表

地域医療におけるグリーフケアを
考えてみよう！

報告書

- 日時 2025 11/22 (土)
9:00～12:10(8:45～受付開始)
- 場所 千葉科学大学 マリーナキャンパス
看護学部棟 6201教室



巻 頭 言

第12回看護実践連携研究会 研修会&発表会によせて

皆様、第12回看護実践連携研究会に参加いただき、誠にありがとうございます。

この研究会は、千葉科学大看護学部と、千葉県北東部および、茨城県南東地域の看護職が連携し、看護実践と教育の向上を目的に発足され、自然災害や新型コロナウイルス等に阻まれながらも、本日12回研修会・発表会が開催されることになりました。

今回の研修テーマは『地域医療におけるグリーフケア』－患者・家族の心に寄り添う援助－です。

講師は、日本の宗教史、宗教理論・死生学など宗教を中心に幅広い研究をされた島菌進先生を迎えご教授いただきたいとお願いしました。グリーフケアとは、喪失と立ち直りの思いの間での揺れ動き、不安定な状態、同時に身体上の不愉快な反応・違和感にさりげなく寄り添い援助することとありました。

私たち医療の現場では、最期を見届け送り出すことで終了としていましたが、その後のケアも必要であることをあらためて知り、新しい看護を見つける良い機会になって欲しいと思います。

また、看護研究に取り組んだ皆様から研究成果を発表していただきます。研究成果や実践活動を共有し、地域における皆様の連携が更に深まることに期待します。

令和7年 11月22日
医療法人積仁会 島田総合病院
加藤 早苗

巻 頭 言

第 12 回看護実践連携研究会 研修会&発表会によせて

晩秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

「看護実践連携研究会」は第 12 回を迎えました。この研究会が長く継続できているのは、ひとえに地域の保健・医療・介護・福祉関係者の皆様のおかげと感謝申し上げます。

さて、第 12 回の看護実践連携研究会のテーマは「地域医療におけるグリーフケアを考えてみよう！」です。団塊の世代が 75 歳に到達した 2025 年、平均寿命の伸びは緩やかになり、多死時代が到来しています。人口動態統計によると、2023 年の死亡数は 1,576,016 人（前年比 6,966 人増）でした。死亡場所別の死亡数を見ると、医療機関（病院・診療所）が 1,035,528 人（死亡数の 65.7%）、介護医療院が 17,828 人（1.1%）、老人保健施設が 45,081 人（2.9%）、老人ホームが 181,783 人（11.5%）、自宅が 267,335 人（17.0%）、その他が 28,461 人（1.8%）となっており、特に 2020 年以降、施設や自宅で看取りを行う割合が増え、働く場を問わず、グリーフケアが重要になっています。また、患者・家族に対する終末期の医療・ケアに関する意思決定支援が進められていますが、グリーフケアはその延長にあるプロセスではないかと思えます。皆様も、日々のケアの中で悩まれることがあるのではないのでしょうか。本日の講演が皆様にとって学び多いものになるに違いないと確信しています。

後半は、地域の看護職の皆様が実践の場で取り組まれた研究発表です。

看護は「実践の科学」と言われます。実践においては、研究で得られた知見を活用すること、優れた実践からその根拠を研究で導き出すことが求められています。忙しい日常業務の中で、研究に取り組まれた発表者の皆様の努力に敬意を払いたいと思います。研究成果の発表の場、方法は多数ありますが、地域の看護実践者の皆様が、分野を超えて研究成果を気軽に発表し合い、お互いから学ぶことができる場として、今後も看護実践連携研究会を活用していただけることを祈念して、挨拶とさせていただきます。

本日はご参加くださりありがとうございました。

令和 7 年 11 月 22 日

千葉科学大学看護学部
学部長 安藤 智子

目次

目次	
プログラム	1
研修会&発表会 当日の様子	3
講演「地域医療におけるグリーフケアー患者・家族の心に寄り添う援助」	4
研究報告	5
参加者アンケート集計結果	6
ご案内施設一覧	9
看護実践連携研究会 役員名簿	12
看護実践連携研究会 企画委員・実行委員	13
看護実践連携研究会のあゆみ	14
看護実践連携研究会 申し合せ	17

プログラム

時間	内容
9:00～9:05	オリエンテーション
	司会：千葉科学大学 看護学部 助教 篠塚美穂
9:05～9:10	開会の挨拶
	島田総合病院 看護部長 加藤早苗
9:10～10:30	講演 「地域医療におけるグリーンケア —患者・家族の心に寄り添う援助」 上智大学グリーンケア研究所元所長・客員所員、東京大学名誉教授 島園進
10:30～10:40	休憩

研究報告

10:40～11:45

演題1. 在宅療養者を支える家族介護者の介護負担要因と介入に関する文献レビュー

所属 新潟薬科大学 看護学部

○明神 一浩

千葉科学大学 看護学部

篠原 百合子

演題2. 児童虐待防止法から想起される27の虐待行為に対する子どもと保護者の意識調査
～それってしつけ？ それとも虐待？～

所属 千葉科学大学看護学部

○水戸 恵

神栖済生会病院看護学部

小林 ゆき 加勢 美佳 吉田 千賀子

順天堂大学小児科

中野 聡

演題3. 看護領域における主観的幸福感の指標及び影響要因に関する文献検討

所属 千葉科学大学看護学部

○石田 直江 富樫千秋 松岡由美子 上杉英生

時 間 **内 容**

演題4. 医療現場における『やさしい日本語』の活用

所属 千葉科学大学看護学部
○鈴木 美貴子

演題5. 医療従事者を守る感染対策の提言 – ゴーグルによる眼粘膜からの感染防御に焦点をあてて –

所属 千葉科学大学大学院看護学研究科 修士課程1年
○鈴木 久美子
神奈川県立保健福祉大学
石原 美和

座長：千葉科学大学 看護学部
准教授 上杉英生

11 : 45 ~ 11 : 55 **閉会の挨拶**

千葉科学大学 看護学部学部長 安藤智子

研修会&発表会 当日の様子



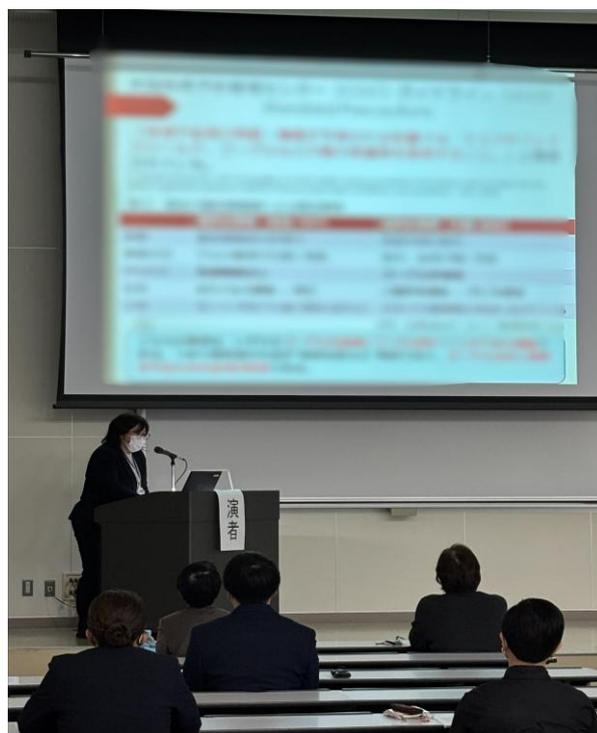
千葉科学大学マリーナ・キャンパス



開会前のオリエンテーション



島蘭進先生のご講演



研究報告

講演

地域医療におけるグリーンケア

—患者・家族の心に寄り添う援助—

講師

上智大学グリーンケア研究所元所長・客員所員

東京大学名誉教授

島園進

研究報告

座長：千葉科学大学看護学部 准教授

上杉 英生

1 在宅療養者を支える家族介護者の介護負担要因と介入に関する文献レビュー

所属 新潟薬科大学 看護学部

○明神 一浩

千葉科学大学 看護学部

篠原 百合子

2 児童虐待防止法から想起される 27 の虐待行為に対する子どもと保護者の意識調査

～それってしつけ？ それとも虐待？～

所属 千葉科学大学看護学部

○水戸 恵

神栖済生会病院看護学部

小林 ゆき 加勢 美佳 吉田 千賀子

順天堂大学小児科

中野 聡

3 看護領域における主観的幸福感の指標及び影響要因に関する文献検討

所属 千葉科学大学看護学部

○石田 直江 富樫千秋 松岡由美子 上杉英生

4 医療現場における『やさしい日本語』の活用

所属 千葉科学大学看護学部

○鈴木 美貴子

5 医療従事者を守る感染対策の提言 - ゴーグルによる眼粘膜からの感染防御に焦点をあてて -

所属 千葉科学大学大学院看護学研究科 修士課程 1 年

○鈴木 久美子

神奈川県立保健福祉大学

石原 美和

参加者アンケート集計結果

●一般参加者アンケート結果（回収数18）

職業について

	人	%
看護師	3	16.7
保健師	0	0.0
助産師	0	0.0
養護教諭	0	0.0
教員	15	83.3

開催時期は適切でしたか

	人	%
とてもそう思う	5	27.8
そう思う	9	50.0
どちらとも言えない	3	16.7
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	1	5.6

開催方法（来場者のみ）は適切でしたか

	人	%
とてもそう思う	4	22.2
そう思う	10	55.6
どちらとも言えない	3	16.7
そう思わない	1	5.6
まったくそう思わない	0	0.0

申し込み方法（QRコード）は適切でしたか

	人	%
とてもそう思う	6	33.3
そう思う	11	61.1
どちらとも言えない	1	5.6
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

資料は見やすいものでしたか

	人	%
とてもそう思う	6	33.3
そう思う	11	61.1
どちらとも言えない	1	5.6
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

講演の時間は妥当でしたか

	人	%
とてもそう思う	8	44.4
そう思う	9	50.0
どちらとも言えない	1	5.6
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

講演は学びを得ることのできる内容でしたか

	人	%
とてもそう思う	8	44.4
そう思う	9	50.0
どちらとも言えない	1	5.6
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

発表の時間は妥当でしたか

	人	%
とてもそう思う	9	50.0
そう思う	9	50.0
どちらとも言えない	0	0.0
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

発表は学びを得ることのできる内容でしたか

	人	%
とてもそう思う	9	50.0
そう思う	9	50.0
どちらとも言えない	0	0.0
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

この会はご満足のいただける内容でしたか

	人	%
とてもそう思う	8	44.4
そう思う	10	55.6
どちらとも言えない	0	0.0
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

●この会に参加してよかったところをご記入ください。

- ・講演会
- ・グリーフケアについて伺えたこと。
- ・同じ職場にいても、研究内容など知らなかったので大変勉強になりました。
- ・グリーフケアをはじめ、発表会で学びが多くありました。
- ・やさしい日本語の、発表がわかりやすく現場でも活用できると思いました。
- ・様々な取り組みや、最前線で活躍されている先生の講演は貴重でした
- ・いろいろな人の活動を知ったり、地域の医療者との交流がある
- ・運営がとてもスムーズでした。発表も時間通りで、質疑応答もでき、中身の濃い研究会だったと思います
- ・質疑応答が積極的で良かった
- ・全体の交流の場となった

●この会で改善してほしいところをご記入ください。

- ・3連休は行事も多く、参加しにくい。対面とWebのハイブリッドがよい
- ・参加人数がもっと多い方が、教室の大きさととのバランスがとれる
- ・参加者を増やしたいです。

〈感想〉

- ・グリーフケアの重要性がわかりました
- ・グリーフケアは年齢関係なく考えないと行けないことだと思いつつ、自分自身が体験していないことで身近に感じられないことも事実であると感じた。経験のない未来を考えることは難しいが、その体験のある方々の話を聞くことを理解を深めていけたらと感じた。
- ・今後の地域包括ケアシステムに取り入れていくべきケアの基本知識を得ることができました。
- ・"地域での、交流の場として大切な会だと思っています。地域からの参加が多くあるといいと思います。"
- ・大学の発表だけで残念でした。
- ・病院以外で死を迎える人や家族に対して様々な活動があることを知った。若い時は患者さんの死が自分自身にとってとても重く、責任のある仕事だと看護職をやめたいと思うこともあったが、年を重ねるにつれグリーフケアの重要性を強く感じた。その人自身の死生観や人生観に医療者としてどのように関わっていけばよいのか考えさせられた。
- ・研究報告は5演題でした。研究されている方がたくさんいると思います。あと2～3演題くらい追加していただいてもいいと思いました。大変興味がある研究をもっときたいです。
- ・グリーフケアの歴史、宗教家の役割、ピアサポートの重要性などが理解できた。医療や介護専門職が抱え込むことで、患者や家族の豊かな人生を妨げる事にならないようにしたいと思いました。
- ・実践を学術的に根拠付けられ、とても興味深い素晴らしい講演でした。
- ・後援会は良かった。しかし、地域の参加者が少なすぎる。地域の医療機関と連携を密にして研究発表を行っていただくなど広報活動や働きかけが必要だと思います。例えば看護連携研究会を発表者の業績になるような会報、もしくは研究会誌を発刊するなど目に見える形でアピールするなど検討をしないとこの研究会自体の存続意味がなくなってしまう。
- ・理解しやすく、グリーフケアについての学びを深めたいと思った。
- ・講演、研究発表など地域の専門職の方々と共有し、看護の質向上に貢献できる取り組みです。
- ・年々、参加者が減少していて残念です。地域の方が参加したいと思える会になるように検討できるとよいです。

〈発表内容や今後取り上げてほしいテーマの希望等〉

- ・人を理解するということのと言うなどの哲学的な話。
- ・地域では、看護職の確保がとても厳しいです。看護職の確保、働き続けられる環境づくりなどのテーマはいかがでしょうか。
- ・人間関係、チーム力
- ・AI時代の看護に求められるもの

●学生アンケート結果（回収数4）

学年について	開催時期は適切でしたか		開催方法（来場者のみ）は適切でしたか			
	人	%	人	%		
大学1年生	0	0.0	1	25.0	1	25.0
大学2年生	2	50.0	3	75.0	1	25.0
大学3年生	0	0.0	0	0.0	2	50.0
大学4年生	2	50.0	0	0.0	0	0.0
大学院生	0	0.0	0	0.0	0	0.0

申し込み方法（QRコード）は適切でしたか	資料は見やすいものでしたか		講演の時間は妥当でしたか			
	人	%	人	%		
とてもそう思う	2	50.0	1	25.0	2	50.0
そう思う	1	25.0	3	75.0	2	50.0
どちらとも言えない	1	25.0	0	0.0	0	0.0
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0

講演は学びを得ることのできる内容でしたか	発表の時間は妥当でしたか		発表は学びを得ることのできる内容でしたか			
	人	%	人	%		
とてもそう思う	1	25.0	2	50.0	2	50.0
そう思う	3	75.0	2	50.0	2	50.0
どちらとも言えない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0

この会にご満足のいただける内容でしたか		
	人	%
とてもそう思う	2	50.0
そう思う	2	50.0
どちらとも言えない	0	0.0
そう思わない	0	0.0
まったくそう思わない	0	0.0

●この会に参加してよかったところをご記入ください。

- ・グリーフケアについて新しい視点を学べました。
- ・知らないことを知ることができ、学びになりました。今後、看護の実践や研究の参考にしたいと思います。

ご案内施設一覧

区分	番号	施設名
病院	1	地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院
	2	社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院
	3	社会福祉法人白十字会 白十字総合病院
	4	医療法人社団善仁会 小山記念病院
	5	地方独立行政法人 さんむ医療センター
	6	香取おみがわ医療センター
	7	医療法人積仁会 島田総合病院
	8	国保多古中央病院
保健所・ 保健セン ター	1	銚子市役所 健康づくり課、高齢者福祉課
	2	東庄町 保健福祉総合センター
	3	香取市 健康づくり課
	4	旭市 健康管理課、高齢者福祉課
	5	匝瑳市 健康管理課
	6	神栖市 健康増進課
	7	潮来市 かすみ保健福祉センター
	8	銚子市東部地域包括支援センター
	9	銚子市中央地域包括支援センター
	10	銚子市西部地域包括支援センター
	11	海匝健康福祉センター
	12	横芝光町健康こども課
看護専門 学校	1	香取おみがわ医療センター附属看護専門学校
大学	1	千葉科学大学看護学部
	2	千葉科学大学大学院看護学研究科
学校	1	銚子特別支援学校
	2	銚子商業高等学校全日制/定時制

区分	番号	施設名
	3	銚子高等学校
	4	波崎高等学校
	5	佐原白楊高等学校
	6	東総工業高等学校
	7	小見川高等学校
	8	匝瑳高等学校全日制/定時制
	9	多古高等学校
	10	松尾高等学校
	11	佐原高等学校全日制/定時制
	12	旭農業高等学校
	13	成東高等学校
	14	敬愛大学八日市場高等学校
	15	横芝敬愛高等学校
	16	千葉萌陽高等学校
	17	土気高等学校
	18	市立銚子高等学校
	19	佐倉南高等学校定時制/特支分校
	20	東金高等学校全日制/定時制
	21	鹿島高等学校
	22	柳川高等学校
	23	神栖高等学校
	24	第一中学校
	25	第二中学校
	26	第三中学校
	27	銚子西中学校
	28	銚子中学校
	29	八日市場小学校
	30	清水小学校
	31	飯沼小学校

区分	番号	施設名
	32	明神小学校
	33	本城小学校
	34	春日小学校
	35	高神小学校
	36	海上小学校
	37	船木小学校
	38	椎柴小学校
	39	豊里小学校
	40	双葉小学校

看護実践連携研究会 役員名簿

氏名	所属・役職
秋葉 由美	地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院・看護局長補佐
中島 道子	社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院・看護部長
古川 雅代	医療法人社団善仁会 小山記念病院・看護師長
井上 純子	地方独立行政法人 さんむ医療センター・看護部長
加藤 早苗（会長）	医療法人積仁会 島田総合病院 看護部長
堀越 佳代（副会長）	国保多古中央病院・看護部長
山田 紀美代	銚子市健康づくり課・保健事業室長
今野 恵	社会福祉法人白十字会 白十字総合病院・副看護部長
安藤 智子	学校法人加計学園 千葉科学大学・看護学部長
梅田 君枝	学校法人加計学園 千葉科学大学大学院・看護学研究科長

（順不同・敬称略）

看護実践連携研究会 企画委員・実行委員

領域	職位	氏名	備考
成人看護学	准教授	上杉 英生	実行委員・企画委員長
基盤看護学	講師	石田 直江	実行委員・企画委員
基盤看護学	助教	篠塚 美穂	実行委員・企画委員
成人看護学	助手	菅谷 亜希子	実行委員・企画委員
基盤看護学	教授・副学長	富樫 千秋	実行委員
基盤看護学	准教授	鈴木 康宏	実行委員
基盤看護学	助教	宮口 恵美子	実行委員
成人看護学	助手	鈴木 久美子	実行委員
老年看護学	講師	岡本 陽子	実行委員
老年看護学	助教	矢内 秀治	実行委員
母性看護学	准教授	平石 皆子	実行委員
母性看護学	助教	田淵 香織	実行委員
小児看護学	講師	高木 典子	実行委員
小児看護学	助教	水戸 恵	実行委員
広域看護学	准教授	松岡 由美子	実行委員
広域看護学	准教授	大塚 朱美	実行委員
広域看護学	講師	高橋 玲子	実行委員
精神看護学	教授	篠原百合子	実行委員
看護学科	助教	鈴木 美貴子	実行委員

(順不同・敬称略)

看護実践連携研究会のあゆみ

■ 平成 26 (2014) 年度		
平成 26 年 10 月 23 日 ～12 月 9 日	インタビュー調査の実施 千葉科学大学看護学部が千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設看護管理者を対象に、病院看護管理者、行政保健師、養護教諭の実践活動の向上に向けての取り組みとその課題のインタビュー調査実施	
平成 27 年 1 月 31 日	第 1 回発表会・看護実践連携会発足 千葉科学大学看護学部において、インタビュー調査報告会を実施（第 1 回発表会）同日、看護実践連携研究会発足	
■ 平成 27 (2015) 年度		
平成 27 年 5 月 23 日	第 1 回研修会 テーマ「看護実践のエビデンスを抽出しよう」	参加者 86 名 再) 一般：67 名 教員：19 名
平成 27 年 8 月 1 日	第 2 回研修会 テーマ「看護実践のエビデンスを抽出しよう」	神栖済生会病院 看護職対象
平成 27 年 11 月 28 日	第 2 回発表会 テーマ「看護実践のエビデンスを共有しよう」	参加者 205 名 再) 一般：94 名 学生：86 名 教員：19 名 他：6 名
■ 平成 28 (2016) 年度		
平成 28 年 5 月 26 日	第 3 回研修会 テーマ「論文クリティークを学ぼう」	参加者 88 名 再) 一般：56 名 教員：32 名
平成 28 年 11 月 26 日	第 3 回発表会 テーマ「看護実践と研究の関係を実感しよう」 【共同研究発表演題数 17 題】	参加者 174 名 再) 一般：87 名 来賓：3 名 学生：55 名 教員：29 名
平成 29 (2017) 年度		
平成 29 年 5 月 13 日	第 4 回研修会 テーマ「実践現場における研究倫理」	参加者 170 名 再) 一般：58 名 学生：80 名 教員：32 名
平成 29 年 11 月 25 日	第 4 回発表会 テーマ「看護実践の知を共有しよう！」 レクチャー「院内デイケア」 【共同研究発表演題数 13 題】	参加者名 152 名 再) 一般：46 名 来賓：4 名 学生：73 名 教員：29 名

■ 平成 30 (2018) 年度		
平成 30 年 5 月 26 日	第 5 回研修会 テーマ「質問紙調査の基礎～アンケートの作り方」 個別相談申込 10 件 (うち、当日相談 8 件)	参加者：138 名 再) 一般：72 名 学生：36 名 教員：30 名
平成 30 年 11 月 24 日	第 5 回発表会 テーマ「地域をつなぐ看護の力！」 シンポジウムテーマ 「地域包括ケアを実践しての現状と課題」 シンポジスト 4 名 【発表演題 9 題】	参加者 137 名 再) 一般：42 名 来賓：3 名 学生：62 名 教員：30 名
■ 令和元 (2019) 年度		
令和元年 5 月 25 日	第 6 回研修会 テーマ「研究目的の設定と調査・分析の進め方」	参加者数：91 名 再) 一般：54 名 学生：9 名 教員：28 名
令和元年 11 月 23 日	第 6 回発表会 テーマ「超高齢社会を支える看護の挑戦」 シンポジウムテーマ 「地域で支える認知症」 シンポジスト 2 名、 【発表演題 9 題】	参加者数：142 名 再) 来賓：3 名 一般：42 名 学生：67 名 教員：30 名
■ 令和 2 (2020) 年度		
令和 2 年 11 月 28 日	第 7 回研修会&発表会 オンライン開催 テーマ「看護研究のスキルを高める」 講師：千葉科学大学大学院 看護学研究科 教授 市原真穂氏 【発表演題 3 題】	オンライン： 50 アクセス 会場：20 名
■ 令和 3 (2021) 年度		
令和 3 年 11 月 27 日	第 8 回研修会&発表会 オンライン開催 テーマ「Let's 看護研究 看護研究の基本を 学ぼう！」	オンライン： 49 アクセス 会場：26 名

	講師：東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 教授 谷津裕子氏 【発表演題 6 題】	
■ 令和 4 (2022) 年度		
令和 4 年 11 月 26 日	第 9 回研修会 & 発表会 テーマ「看護実践の『もやもや』を 解き明かそう！」 講師：上智大学 総合人間科学部 看護学科長 教授 草柳浩子氏 【発表演題 7 題】	オンライン： 84 アクセス 会場：32 名
■ 令和 5 (2023) 年度		
令和 5 年 11 月 25 日	第 10 回研修会 & 発表会 テーマ「看護で地元を創成しよう！」 講師：東京都立大学 健康福祉学部 学部長 西村ユミ氏 【発表演題 7 題】	参加者数：88 名 内) 一般：24 名 学生：44 名 教員：20 名
■ 令和 6 (2024) 年度		
令和 6 年 11 月 23 日	第 11 回研修会 & 発表会 テーマ「看護の力で災害に強い地元を創ろう！」 講師： NPO 法人災害看護支援機構前理事長・山崎絆塾代表 四天王寺大学 准教授 山崎達枝氏 【発表演題 8 題】	参加者数：106 名 内) 一般：50 名 学生：44 名 教員：12 名
■ 令和 7 (2025) 年度		
令和 7 年 11 月 22 日	第 12 回研修会 & 発表会 テーマ「地域医療におけるグリーンケアを 考えてみよう！」 講師： 上智大学グリーンケア研究所元所長・客員所員、 東京大学名誉教授 島蘭進氏 【発表演題 5 題】	参加者数：39 内) 一般：18 学生：8 名 教員：13 名
令和 8 (2026) 年度		
令和 8 年 11 月 21 日	第 13 回研修会 & 発表会	

看護実践連携研究会 申し合せ

<目的>

千葉科学大学看護学部と千葉県北東地区・茨城県南東地区の関係機関ならびに実習施設が対等の立場で連携し、看護実践及び看護学教育の質向上に向けての研究、研修会ならびに研究発表会を実施する。

<組織>

1. 当該研究会は千葉科学大学看護学部教員ならびに前述の地域関係機関の保健師・助産師・看護師・養護教諭・看護教員等を会員として組織する。
2. 会員は施設会員と個人会員の2種類とする。
3. この研究会は役員会と委員会をおくものとする。
4. 役員会は看護実践連携研究会の運営に関する事項を担う。
5. 役員会は前項の職種代表者数名、委員会によって構成する。
6. 役員会には会長1名、副会長2名を置く。
7. 副会長は学内から1名、学外（役員会）から1名置く。
8. 会長・副会長は、役員会のメンバーの互選によって選出する。
9. 委員会は千葉科学大学教員で構成する。
10. 委員会は委員長1名、委員を数名置く。
11. 委員会は役員会より付託された事項に関し、企画・運営をする。
12. 委員会は共同研究に関して学部内担当者を調整する。

<任期>

役員・会長・副会長、委員長・委員、会計監査の任期は2年とし、欠員が生じた時の補充者の任期は前任者の残任期間とする。

<総会>

年に1回総会を開催する。

<役員会>

年1回役員会を開催する。また会長が必要とした場合、臨時役員会を開催する。

<研修会>

研修会は看護の課題を解決するための手法や専門的知識や技術を習得することを目的として毎年1回開催し、報告書の発刊により周知をはかる。

<発表会>

発表会は地域の看護実践、看護学教育の質向上と地域の連携のための情報交換を目的として毎年1回開催する。大学と地域関係機関との連携による研究成果は、発表会を持って公表し、報告書の発刊により周知をはかる。

<所掌事項>

1. 看護実践・看護学教育の質の向上に向けて大学と地域関係機関との共同研究、共同研究成果発表会・研修会の開催、報告書の発刊
2. 看護実践・看護学教育の質の向上に関わる啓発活動
3. 運営上必要な人事・予算に関すること

附則

本申し合せは平成28年5月21日から施行する。

本申し合せは平成30年11月24日から施行する。

本申し合せは2023年11月25日から施行する。

本申し合せは2025年11月22日役員会から施行する。

令和7(2025)年度第12回看護実践連携研究会研修会 & 発表会報告書

2026年2月

発行 千葉科学大学看護学部 看護実践連携研究会委員会

〒288-0025 千葉県銚子市潮見町 15 番地8